



日刊 重労千葉

動労千葉結成10周年！

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 | (鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 千葉 (22) 7207番

1989.5.15 No. 3030

5.28三里塚入全力総集を

「二期工事完成」は日帝にとつて死活問題だ

政府・空港公団は、これまで数回にわたって「二期完成」プランを打ち出し、ことごとく失敗してきました。毎年毎年数百億円の予算を計上し、「今年こそは完成、来年こそは完成」と意気込みはみせても、敷地内反対同盟を先頭とする空港反対闘争の前につぎからつぎへと破産の山を積み上げていいくにすぎなかつた。

二期完成プランは次々と下方修正されていく。「二期完成は、帝國主義として延命できるかどうかのかかつた死活問題である。そもそも空港建設そのものが、軍事利用の側面(本来は本質であるが)と、航空宇宙産業(他帝國主義とくらべて日帝が最も大切おくれている産業)の育成という観点から見

たためしがない」という格言があるが、政府・空港公団の「今度こそは」では、こうした格言を地でゆく見本である。

だが、日帝にとって二期完成は、帝國主義として延命できるかどうかのかかつた死活問題である。そもそも空港建設そのものが、軍事利用の側面(本来は本質であるが)と、航空宇宙産業(他帝國主義とくらべて日帝が最も大切おくれている産業)の育成という観点から見

敷地内農家のまわりで、追い出しのための「いやがらせ」「事始まる」

が理解頂くことにつながる」と敷地内農民追い出し宣言をしているのだ。一方では「話し合い」を口にしながら、同じ口で、かような暴言をはいでいるのだ。

だが重要なことは、これらの工事のすべてが穴あき工事であるということだ。すべてが未買収地での大型重機による工事は民家を搖さぶり、地下水脈を破壊し、生活と嘗農に重大な影響を与えているのだ。そして、松井公団総裁はヒレツにも「立てた目標は動かさない。まで工事を進め、反対農家の方にお見せすること

五・二八決起の方で、敷地内農民を守りぬこう

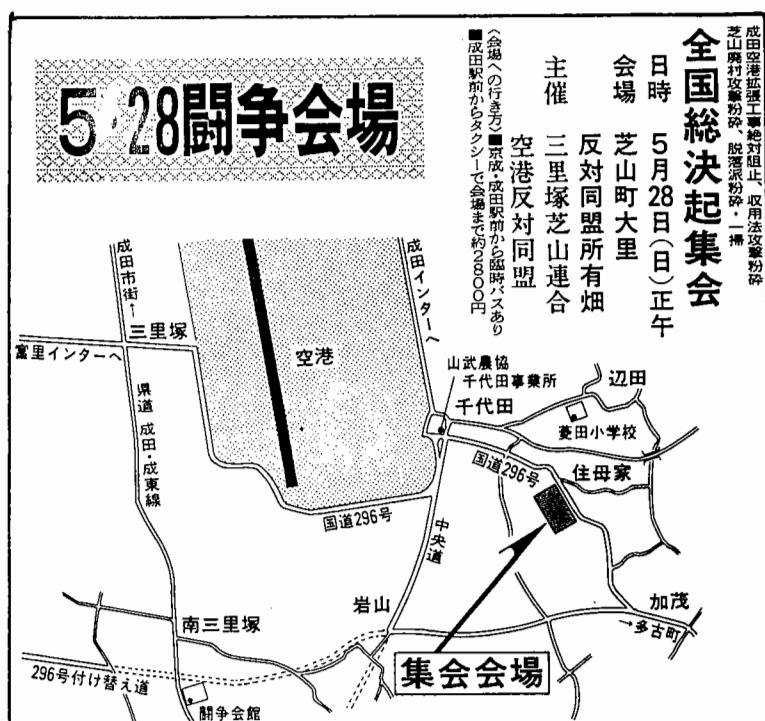
これらのヒレツな攻撃に対して敷地内農民は怒りも新たに農地死守の闘いに決起することを内外に宣言している。われわれは、これら敷地内農民を見殺しにしてはならない、強制代執行攻撃を許さず、県土地收用委員会の再任命を許さず、闘いに決起していくうではないか、敷地内農民を激励し守りぬくために全力で五・二八三里塚へ結集しよう。

にぶち当つて中断せざるをえない。ただただ農民の屈服だけを前提にした見通しのない、でたらめな工事である。工程上、完成見通しのあるものは何一つない、ただただ敷地内農民に圧力をかけ、たたかいを放棄させるための恫喝として強行されているにすぎない。



3・26三里塚に決起した動労千葉。

5.28抗争会場



全組合員が血を流し、涙を流し、そして勝利した10年！